

CONTENTS ◆秋のつどいレポート ◆おくさわ今と昔 ◆昭和10年～15年の奥沢駅北側はこんなまちなみでした
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆樹と人と ◆会からのお知らせ

秋のつどいレポート

まちなみウォッチング

成城のまちと緑を訪ねる



9月30日は晴天で心地よい風が吹き、最高の散歩日和でした。二子玉川駅に集合したのは27名、バスで成城駅に向かいました。成城在住の松田宏さんがバス停まで出迎えて下さり、御案内をうけて早速ウォッチング開始です。成城学園の正門から伸びる小原通りのイチョウとプラタナスの堂々とした並木を眺め、イチョウの下を歩いて桜の並木道へと曲ります。建て替えの時に松の古木を残し、見事に家と調和させているお宅、古い築地塀を残しているお宅、ヒマラヤ杉が新しい建主によって

景観にとりこまれている旧三船敏郎邸など、古いものを大切に活かす姿勢を学びました。再び並木通りを西に向かって進み、せたがやトラスト協会が管理する猪俣庭園に入りました。此処は故猪俣猛氏の住宅で、文化勲章受賞者吉田五十八氏の設計による数寄屋造りの美しい建物です。屋根の構成や茶室の趣はもとより、全てを引込戸にして出来た広い空間・畳も床も一切段差が無い造りなど行き届いた設計の室内に坐して眺めるお庭のすばらしさ。心が落ち着くこの空間にいつまでも浸って



いたい思いでしたが、再び歩き始めます。

緑が多く生垣が美しいゆったりした街並みを歩いて、レトロな住宅の前では古き良き時代に暮らした御家族の姿を思い浮かべました。一部が区の所管になったというお話を聞き、庭の面影だけでも残れば嬉しいと思いました。不動橋を渡り、こもれびの庭・市民緑地に入りました。高くそびえる3本のヒマラヤ杉が遠くからの目印です。成城のお宅は庭先にシンボルとしてヒマラヤ杉が植えられたとのこと、奥沢2丁目のシュロの木と同様です。昭和6・7年頃の建築という洋館と芝生のお庭の前に広がる、植え込みの部分市民緑地として区に提供していらっしやる



場所で、木漏れ日がボランティアによって手入れされた花壇の花にやさしい光を投げ、心休まるお庭でした。こんな場所が奥沢にほしいーと思いました。最後に、小さい頃から親しんで来た大きなクスの木を残すために、家の形が木に寄り添うように建てられたお宅を見ました。住人の木への愛情を強く感じました。

バス停で解散、2時間の楽しい散歩は街の緑を存分に楽しみ、年代を経た洋館や保存樹が点在する中に芸能人の住居もあって、成城の多彩な表情を見ることができました。緑の保全に並々ならぬ努力を重ねる成城なればこそその風景でした。(柳島)



おくさわ今と昔

奥沢の二、三の昔語り

奥沢5丁目 栗田信男

奥沢駅西側の引込線路が無くされた後、駅のすぐ西に、自由通りに面して森永ベルトラインと云う洋菓子・喫茶の店が作られました。そこより百メートル程西の平松理髪店では、子供の理髪に際し、森永ベルトラインで小菓子や飴をもらえる引換券を出しました。それで子供達に大変人気が出ました。

奥沢神社(八幡神社)の東方、現在の奥沢病院のあたりにあった広場に、昭和9年ごろ、土俵が築かれ、周囲にゴザを敷いた席が設けられて、3~40名の力士がここで大相撲をやって見せたのです。入場料はよく覚えていませんが大人一人五銭位だったでしょう。

ところで、九品仏の北西には湧水があり、昭和7年に60メートル×40メートル、深さ7、80メートルの大きな穴が掘られ、湧水をためて池が出来、そこから流れる水流が九品仏川と呼ばれて、豊かな水量で両側に水田を作りながら緑ヶ丘小学校の近くを流れ、東京工業大学のすぐ西で呑川に合流していました。台風の時など九品仏の池から、鯉や鮒が柵を越えて九品仏川に逃げ出したのを、釣りの好きな大人たちが釣竿をたれたり、円い網を竹棒にくくりつけて魚をすくったりしていました。この川は水量ゆたかな川で、子供たちも水遊びをしていました。

ところで九品仏駅の南、現在の環八道路のすぐ南に、長さ100メートル、幅30メートル程の大きな水槽が四つ程あり、高さ15メートル程の鉄骨塔の上には、円筒の水タンクがありました。ある時、奥沢教会付属幼稚園の遠足で、全員円タクに乗って小石川植物園に行きました。帰りには又円タクで帰路についたのですが、運転手たちが行きの人とは違うので、道を間違えて尾山台・等々力の方まで行ってしまいました。この時母親たちが水道タンクを見つけて、西に来すぎたことを注意し、運転手はそれに従い無事に幼稚園まで皆をはこぶことが出来ました。このような幼い頃の思い出は書ききること無く、あざやかによみがえって来ます。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



あいのうた

奥沢2丁目 田川英信

日本テレビ水曜夜10時からのドラマ「あいのうた」(主演、菅野美穂)をご覧になってますか? テレビでは分かりづらいかもかもしれませんが、あれっ?と気づかれた方があるかも。そう、奥沢2丁目の「海軍村」のお宅があの一家の住まいという設定になっています。時おり、ロケも行われていますよ(ただし、デパート?の屋上から家を覗けたり、家の近所が下町になっていたり、実際とは全く違っているのが可愛嬌ですが・・・)。

それにしても奥沢は、テレビのロケがよく行われる街ですね。去年はフジテレビで、坂口憲二・松坂慶子が親子を演じたドラマの舞台にもなっていましたね。やはり、魅力ある、風情のある街並みなのでしょうね。

私たちが初めて奥沢に住み始めたのは長女が3歳の時でしたから、もう20年も前のことになりました。奥沢保育園の近くで、保育園の送迎が大変楽でした。一時転居して、8年間ほど隣町の東玉川に住んでいましたが、2年前に同じ奥沢2丁目に舞戻ってきました。今度は、海軍村の石碑があるところのご近所です。賑やかな自由が丘から直ぐ、という好立地でありながら大変閑静なところ。引越と同時にクィーンズ伊勢丹自由が丘店が開店し、兼業主夫としては大変便利にしていたのに、9月に閉店になってしまったのが残念です。

ご近所の手入れの行き届いた素敵な花壇・植栽を拝見しているだけで、心がのどかになる気がします。それに比べ私の家は、ガーデニングが得意でないことに加え、飼っている柴犬が花壇を荒らしまわることもあり、悲惨な状態です。とても「土とみどりを守る会」に拙文を寄稿する資格などないと思いつつも、頼まれたら嫌と言えない性格(!)のせいで、こんなことになってしまいました。少し反省して、皆さんに和んでいただける街並みに寄与できるよう、努力しますね。

●奥沢・自由が丘あたりの古い風景が写っている写真をお持ちの方はご連絡下さるようお願いします。

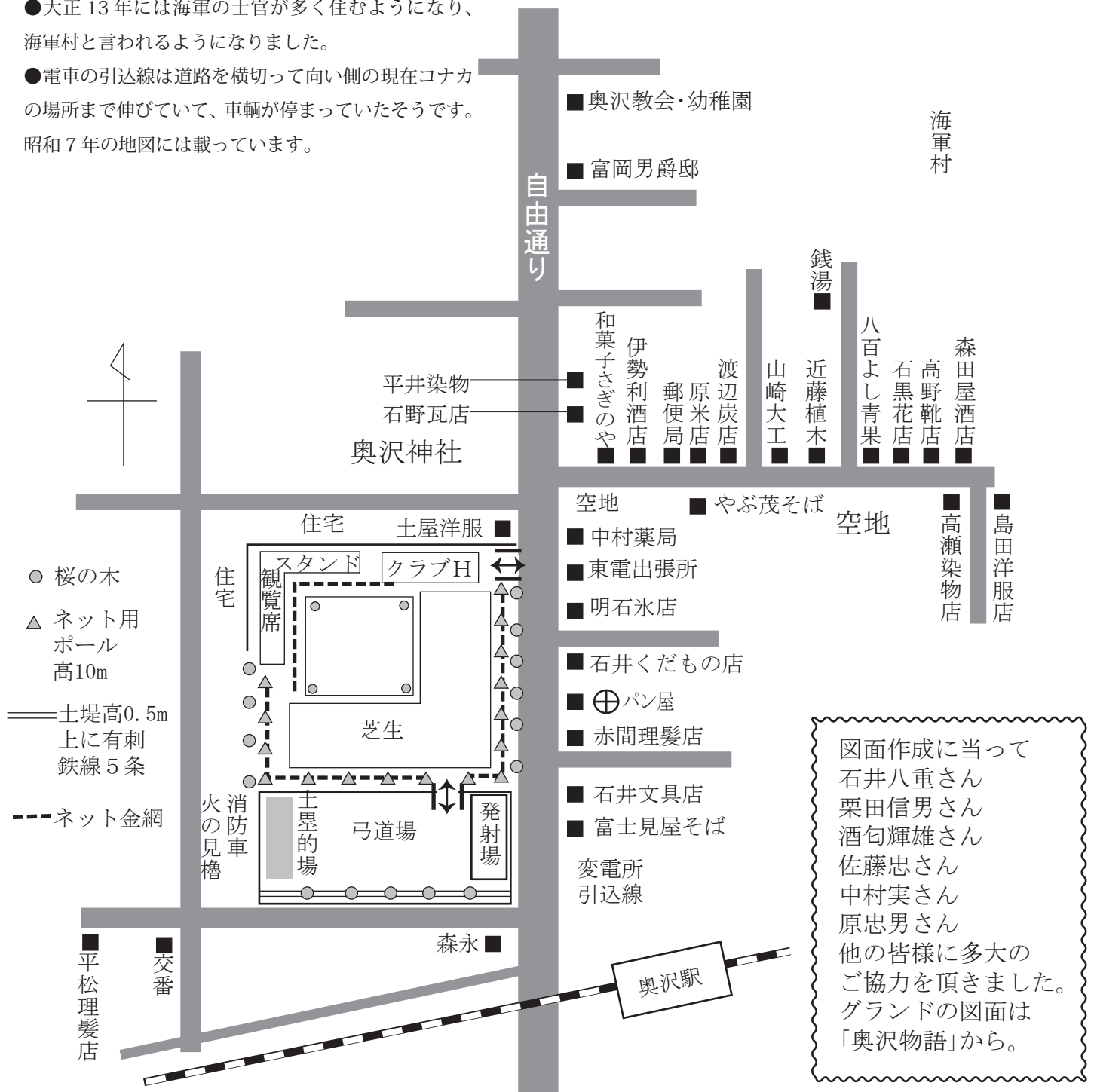
●このシリーズへの御投稿をお待ちしております。お話を聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。

—昭和 10～15 年 (1935～40) の奥沢駅北側はこんなまちなみでした—

当時からお住まいの方に記憶を辿って頂き、駅周辺の地図をつくってみました。昔の奥沢を知らない方々も、のんびりした 70 年前のまちなみを想像してみてください。

- 明電舎グラウンドは当時社会人野球の強者明電舎チームが練習や試合をしていた所で、昭和 12・3 年頃まであったそうです。
- 富士見屋さんの開店は大正 12 年 (1923) 4 月で、その年の 9 月に関東大震災がありました。お店の 2 階から富士山がよく見えたので屋号になったそうです。
- 大正 13 年には海軍の士官が多く住むようになり、海軍村と言われるようになりました。
- 電車の引込線は道路を横切って向い側の現在コナカノ場所まで伸びていて、車輛が停まっていたそうです。昭和 7 年の地図には載っています。

- 戦争中には強制疎開があり、(空襲による被害を少なくするために工場や線路の周辺の家は取りこわして空地にする) 富士見屋から石井果物屋まで撤去されました。
- 目蒲線は大正 12 年に目黒・沼部間開通。大井町線は昭和 4 年に大井町・二子玉川間開通。



図面作成に当って
石井八重さん
栗田信男さん
酒匂輝雄さん
佐藤忠さん
中村実さん
原忠男さん
他の皆様に多大の
ご協力を頂きました。
グラウンドの図面は
「奥沢物語」から。

グリーンサムのお庭拝見 Vol.10

四季折々、お家が沢山の花に包まれている2丁目4番地の中島さんをお訪ねしました。門前の右側には、まだ沢山の蕾をつけている1m近い赤いハイビスカス・銀木犀・桂・ベゴニア等の1鉢とコートダジュール・デュランタ・ガザニア・3年になるシクラメン等の1鉢が寄せ植えで賑やかに迎えてくれます。左の門柱の前には金木犀・デュランタ。南西の角には薄紫の上品なランタナがお隣に茂っていて、それに肖るよると赤と黄のランタナの鉢が並べてあります。

門の中には赤い桜・ジャスミン・ミモザ・ヒバ・ブッシュミニト。すすきの下には蘭・一番奥に酔芙蓉。30ぐらい蕾がついても咲くのは半分。アプローチにはメタルの椅子とテーブル。その上に盆栽風の植木と、一目惚れして買った深い赤紫のダリア。赤いブラシの木が大きく育っています。以前に食

べたサンザシの実のゼリーがとてもおいしかったので、下北沢で見つけた時は即買われたというサンザシ。その下にはネリネの赤い花が1本顔を出しています。ガレージとの間にはクリスマスの電飾に重宝している姫リンゴ・ピンク白黄の3本のエンゼルトランペット、いつかお隣りのように見事に咲いてくれたらと思っているとのこと。斑入りのシャクナゲには大きな蕾が沢山ついています。パピルス・アガパンサス・ユリオプスデージー・つつじは左側門柱のすぐ後ろ。まだ書ききれない程沢山の花木が、すべて鉢植で立派に育っています。

此処に越してすぐ、通りすがりの年輩の方と花の話が弾みその後には頂いたというイエライシヤン。山口淑子の歌は今でもレコードで楽しめるそうで、まさか本当にあるとはビックリ。今では“私の宝物”だそうです。あわれ春風に——の一節を思い出しながらおいとましました。(立花)



10月のピラカンサ

樹と人と一花と実編

推奨樹木の持ち主の方に、木にまつわる話・木への思いを語っていただくコーナーです。(毛利)

ピラカンサ+堂山幸男・揚子さん (奥沢5丁目21番地)

「ピラカンサが我が家に彩りを添えてくれるようになってもう十数年になります。最初は母が生け花の材料で活けたものを水の中で根を出させ、鉢植えで実を楽しんで2年程。少し大きくなったものを貰い受け門の脇に地おろししたのが、今の姿に大成長してくれました。地植えから2・3年はこじんまりと実をつけているだけだったが、或る年急にシュートが盛大に立ち上がりました。太い割にシュートが柔らかなので杏の横張りの枝を頼りにカーブをつけ、門かぶり状に仕立てて翌年の花を待ちました。5月半ばに淡いグリーンの掛かった白い小花が群がって咲き、10月に実が紅くなり始めた時は本当に心躍らせて見守ったものでした。11月末には紅いがまだ熟していないようで鳥は訪れず、門周辺が明るくなりました。正月には我が家の前を通る奥沢神社への初詣客が賛嘆の声をあげてくれるのを家の中で誇らかに聴きました。1月中旬に甘い香りがしているなど思った瞬間から椋鳥や四十雀が群がって啄ばみ始め、ほんの3日程ですっかり丸坊主！これも自然の摂理とその季節の訪れを楽しんでいる昨今です。我が家にとってピラカンサは、春の花時から青い実が次第に色づき真赤に燃えたつ正月の最盛期までその時々貴重な自然の贈り物です。」

会からのお知らせ

●秋のつどいⅡは11月13日(日)午後1時30分から奥沢東地区会館で開きます。第一部は山口聡博さん(5丁目在住)によるチェロの演奏です。第2部は奥沢2丁目に「品品」を開店して3年の小林健二さんに景色盆栽のことなどをお話いただきます。どうぞふるって御参加下さい。

●10名ぐらいの方に、子ども時代の奥沢駅近くにあったグラウンドとそのあたりのお店の記憶を手操って頂いて、3面の記事にしてみました。当時をご存知の方々の記憶と一致するでしょうか。思い出された事がありましたら、どうぞ柳島迄御連絡をお願いします。

●土とみどりを守る会では会員になって下さる方を常時募集しています。会の活動を支える会費は年間一口1000円です。ご協力をお願いいたします。

●前号で、この欄でお知らせした成城行日程が猪俣邸の休日に当たったため変更になり、参加できなかった方にお詫び申し上げます。

編集後記：10月8日に「東京あるきテクト」のグループ12、3名の方が奥沢2丁目を訪ねていらっしゃいました。お若い方々でしたが、このまちの静かな雰囲気や緑を大切にしていること、シンボルフラワーが道を彩っていること、海軍村に今も残る住宅や面影などを気に入って下さったようで、コーヒーを飲みながらのお話も弾みました。私たちのこのまちに、初めて来られた方々がどのような印象を持たれるのか心配でしたが、御案内役としてとても嬉しい出来事でした。(Y)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558